

建設 ながの

(一社)長野市建設業協会
長野県建設業協会長野支部

広 報 誌

9

2025
(令和7年)
No. 234



旧中込学校（佐久市）

佐久市にある「旧中込学校」は、明治8（1875）年に建築された擬洋風建築の建物で、日本に現存する最も古い学校です。アメリカで建築を学んだ地元出身の市川代治郎が設計したもので、地元篤志者による寄付で建築されました。

木造・2階寄棟造・桧瓦葺、中央部八角塔屋付、間口7間（12.8^{メートル}）・奥行11間（20.0^{メートル}）・高さ5尺8寸（17.6^{メートル}）、1階81坪（267.5[㎡]）・2階77坪（254.3[㎡]）の建造物です。窓には当時は珍しかったステンドグラスも使用されており、別名「ギヤマン学校」とも呼ばれ今でも多くの人が訪れる場所となっています。

（中島 麻希）

目 次

2. ■ 「令和6年度決算について」

長野市財政部長 原 敏博

3. ■ 「第82回国民スポーツ大会・第27回全国

障害者スポーツ大会」の開催に向けて

長野市スポーツ部長 小林 真二

4. ■ 長野市が優良工事12件を表彰

5. ■ 長工高生の刈払機作業実習で講師

6. ■ 真田宝物館「新収蔵資料展」

松代文化施設等管理事務所 研究員 山中 さゆり

7. ■ 「地域と共に歩む脱炭素への道」

（株）守谷商会長野建築本店営業部営業課次長

畑 謙司

令和6年度決算について



長野市財政部長
原 敏博

4月1日付で長野市財政部長に着任いたしました原でございます。

県建設業協会長野支部及び長野市建設業協会の皆様には、日ごろより本市の行財政運営に格別のご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。酷暑が続く大変厳しい環境のなか、日々、市民生活の基盤となる公共事業の実施にご尽力いただき、感謝申し上げます。

さて、本市では、令和7年度予算において、未来の飛躍に向けた「変革」・「挑戦」を掲げ、「健康・福祉」「地域・防災」「経済」「交通」を4つの柱を中心に、各種事業を推進しております。なかでも災害に強いまちづくり、オリンピック施設や小・中学校等の公共施設の長寿命化などの事業は喫緊の課題と認識しております。

今回は紙面をお借りして、8月に公表した令和6年度の決算につきまして、概略をご紹介します。なお、文中意見にわたる部分は私見を含んでおります。

長野市の令和6年度一般会計決算は、歳入総額が前年度比42億円増の1,709億円、歳出総額が同61億円増の1,667億円となり、差額の42億円から翌年度への繰越財源を差し引いた実質収支は26億円の黒字となりました。

主な増減について見ると、歳入については、市税収入が前年度比12億円減の597億円となりまし

たが、個人市民税の定額減税の影響が大きく、その影響を除けば増加しています。また、地方交付税については、国の補正予算の成立に伴い追加交付があったこと等により前年度比21億円増の251億円となったほか、市債の新規発行については、前年度比21億円増の105億円となりました。

次に、歳出について目的別にみると、最も多くを占める民生費が前年度比15億円減の624億円となりましたが、前年度に実施された物価高騰対策のための給付金の影響が大きく、それを除けば、幼稚園・認定こども園等への施設型給付費や障害者給付費の増等により増加傾向にあります。また、教育費については、小・中学校の長寿命化改修や国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会関連の施設整備の本格化により前年度比42億円増の196億円、土木費についても、道路除雪費の増や雨水調整池整備事業の増等により前年度比7億円増の181億円となりました。なお、性質別にみた場合の普通建設事業費等の投資的経費については、前述の長寿命化改修や国スポ関連の施設整備の増加等の影響により、前年度比33億円増（+19.2%）の207億円と大幅に増加しております。

今後は、給与改定等による人件費の増加、社会保障関係経費のさらなる増加等に加え、建設資材の高騰や労務単価の上昇等の影響もあり、非常に厳しい財政運営となることが見込まれておりますが、市民の皆様の安心・安全のために必要不可欠な公共事業は着実に進める必要があると考えております。

事業の実施に際しましては、建設業の皆様のご協力が必要不可欠です。引き続き、市政へのご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

地域を支える技術者集団

長野県土木施工管理技士会
長野支部

長野市岡田町124-1 長水建設会館内
TEL 026-227-6226 FAX 026-228-6231

笑顔のある「住まいづくり」は
当協会会員企業にお任せ下さい

JBN・全国工務店協会
長野県優良住宅協会

長野市岡田町124 (長水建設会館内)
TEL 026-227-6226 FAX 026-228-6231

「第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会」の開催に向けて



就任あいさつ
長野市スポーツ部長
小林 真二

日頃から、長野市建設業協会並びに長野県建設業協会の皆様におかれましては、本市行政に対して格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、スポーツ関連施設の施設整備、適切な維持管理に多大なるご尽力を賜り改めて感謝を申し上げます。

さて、スポーツ部では、第五次長野市総合計画と第三次長野市スポーツ推進計画に基づき、「スポーツの力で未来をつくるまち NAGANO」の実現を目指し、「スポーツを軸としたまちづくり」を積極的に推進しております。

このような中、令和7年7月16日開催の公益財団法人日本スポーツ協会理事会において、令和10年の第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会の開催地として長野県が決定されました。大会の愛称は「信州やまなみ国スポ・全障スポ」、大会のスローガンは「行こう。それぞれの頂へ。」で、長野県での開催は、昭和53年の「やまびこ国体」以来50年ぶりとなります。

本市は、1998年の長野冬季オリンピックの会場となった大規模なスポーツ施設を有していることから、国民スポーツ大会8競技、全国障害者スポーツ大会4競技の開催が予定されるなど、「信州やまなみ国スポ・全障スポ」においても中心的な役割を求められているため、現在、大会に向けての準備を進めております。

施設整備の面では、令和4年3月に策定した「長野市国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会施設整備計画」に基づき、長野運動公園総合体育館の建替えと隣接するアクアウィングの長寿命化改修、(仮称)南長野運動公園フットボール

場の整備を行っているほか、建設から30年近くが経過しているエムウェーブ、ビッグハット、ホワイトリングなどのオリンピック関連施設の長寿命化改修を進めております。

これらの施設は、「信州やまなみ国スポ・全障スポ」の会場としての利用はもとより、大会後に、多くの市民の皆様を活用され、愛される施設となることを目指し、整備・改修を行って参ります。

大会のソフト面につきましては、本大会を契機とし、市民による歓迎や観光PRによる全国への魅力発信などにより地域の活性化へとつなげるとともに、スポーツ人口の拡大や競技力向上などのスポーツ振興を図ってまいりたいと考えております。

また、国スポ・全障スポで使用される大規模なスポーツ施設だけでなく、社会体育館などの市民にとって身近なスポーツ施設についても、長寿命化改修や空調設備の設置を順次行い、市民が快適にスポーツを楽しめる環境を整備してまいります。

その他、スポーツ関連施策といたしましては、プロスポーツチームと本市との連携強化、スポーツ合宿や国際大会の誘致などによる交流人口拡大、地域活性化を目指し事業を実施しております。

結びに、「スポーツを軸としたまちづくり」の推進にあたっては、建設業に携わる皆様のお力添えが不可欠であり、今後もより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、両協会の皆様のご健勝とご活躍をお祈りし、就任のあいさつといたします。



令和10年開催の「信州やまなみ国スポ・全障スポ大会」に向けて、体育館の建て替えが進む長野運動公園

長野市25年度優良工事

出来栄え優れた12件を表彰



市役所第二庁舎講堂で行われた優良工事表彰式

長野市は8月20日、2025年度優良工事表彰式を市役所講堂で開催した＝写真。建設工事における施工の適正化と施工技術の向上を図ることを目的とし、今回は、24年度に竣工検査を行った工事714件（請負額130万円以上）のうち、対象となる工事149件から選ばれた12件の優良工事を表彰した。西澤雅樹副市長は「選定事業者は設計図書を十分理解し、適格な施工計画に基づいた安全・工程・施工の管理に優れ、高品質で出来栄えの優れた工事を完成させた」と審査経過を報告した。

萩原健司市長は「受賞を祝うと共に、地域の守り手として市民の暮らしを守るため、公共施設の長寿命化対策など、今後の工事についても引き続き支援をお願いしたい」と祝福。長野市議会の西沢利一議長は「今後も業界のリーダーとして活躍しながら、技術や知見、工夫を次代の担い手に引き継ぎ、市の安心安全な地域づくりに貢献してもらいたい」と祝辞を述べた。

受賞者を代表し、北條組の北條将隆社長は「受賞は誇りであり、今後も良質な社会資本提供のため技術の研鑽に励み、安心安全の確保に努めていく。建設業が果たすべき責務と公共事業の役割を深く認識し、地域の安心安全に寄与し、信頼を得られるようより一層努力していく」と謝辞を述べた。受賞工事は次の通り。

【道路】▽北條組・新光建設JV＝国庫災飯森新橋線外1路線災害復旧▽大松建設＝国補千曲川新道活性化プラン（綿内北工区）道路築造2工区▽川浦土建＝国補裾花あやとり橋橋梁補修▽川中島建設＝国補川中島幹線道路築造▽吉原建設工業＝国補戸隠北31号線2工区道路美装化

【河川】▽守谷商会＝県補柳原1号幹線排水路改修▽長電建設＝松代温泉団地3号ポンプ施設整備

【構造物】▽共進建設＝柳原小学校雨水貯留施設整備

【建築】▽川浦土建・野村建設JV＝（仮称）長野市豊野防災交流センター整備事業建築主体

【電気設備】▽コスモ電設＝0市債国補三輪小学校西校舎長寿命化改修電気設備

【機械設備】▽日拓＝（仮称）長野市豊野防災交流センター整備事業機械設備

【上下水道】▽高木建設＝（仮称）若穂スマートIC関連下水道

そして、街はメディアになる。



矢木コーポレーション 養荘

長野市真島町川合2036番地 Tel:026-283-7000
Mail:yag@yagicompany.jp

長工高生が刈払機作業実習

県建設協長野支部から講師

長野工業高校で8月25日、同校と長野建設事務所が裾花川河川敷にウォーキングロードを整備する「建設技術実践プロジェクト」で、施工班として参加する同校土木科3年8人に、業務としての刈払機の使用で必要となる「刈払機取扱作業者」についての安全衛生教育が行われた。プロジェクトに連携している県建設業協会長野支部から、総務委員長を務める小池組の小池毅夫社長と社員2人が講師となり、座学と実技を行った後、生徒に修了証を手渡した。

座学では、専用のヘルメットや防振手袋、肩掛けバンドなどの装備品の装着方法と刈払機の操作方法について説明を受け、テキストを使い機械使用時の注意点などの知識を学んだ。実技は同校のグラウンドで、ショルダー式のビーバーを使って草刈りを行い、生徒たちは緊張した面持ちで講師の指導を受けながら、慎重に刃を動かし草を刈り取った。

小池委員長は「草刈り機は重力に逆らわず動き



指導を受けながら刈払機を操作する長野工業高生(左)

を守ることが大事。有資格者としてプロジェクトを成功に導いてもらい、未来の建設業の担い手として活躍する力にしてほしい」と期待した。

講習に参加した塚田悠叶さん(17)は「実際に使ったら思った以上に振動が手に伝わり緊張したが、わかりやすく丁寧な指導でしっかりと作業ができた。この経験は卒業後の進路でも役に立つはず」と感謝を述べた。



あいさつする川浦会長

長野市道路舗装協会 川浦会長を再任

長野市道路舗装協会(川浦二三郎会長)は7月31日に長野市内のホテルで定時総会を開き、任期満了による役員改選で、川浦会長を再任。副会長は清水信寿氏(川中島建設工務本部長)、藤森将一氏(藤森建設工業会長)を再任、楠茂夫氏(アスペック社長)を新任し3人体制とした。また、2024年度収支決算、25年度事業計など等も承認した。

25年度は、市発注のアスファルト舗装工事等

入札制度に関する要望・提言、アスファルト舗装技術向上改善に関する研修、災害発生時の復旧支援などを重点に活動を進める。

7月9日には顧問の西脇かおる市議を通じて上下水道局管理者、財政部長、建設部長との懇談会を開催。川浦会長は「7月の懇談会は、舗装技術の現状を確認し合える有意義な会となった。市側からは若手職員が上司に仕事を教わる機会が少ないという意見も聞き、今後支援できることを考えながら、舗装技術向上につながる活動を続けていく」とあいさつした＝写真。

西脇市議は「市民のため、より良いインフラ整備ができるよう、行政と業界が力を合わせて次世代を担う人材確保と育成を行い、課題改善に取り組んでいくことが重要」と強調した。

総会後は、昨年秋の叙勲で旭日双光章を受章した高木正雄氏を称え記念品を贈った。

真田宝物館「新収蔵資料展」

松代文化施設等管理事務所
研究員 山中 さゆり

令和7年度真田宝物館の秋の企画展は、9月17日（水）から「新収蔵資料展」と題し、ここ数年で新たに真田宝物館が収集した資料をまとめてご紹介する展示を開催しています。真田宝物館では、寄贈・寄託や購入によって随時多くの資料を収集していますが、中には資料的価値が高くても展示の方向性やテーマによってなかなか展示ができないものがたくさんあります。また、多くの資料を一括収集する場合がありますが、それらをまとめて展示する機会がない場合がほとんどです。本展では、そうした資料をご覧いただくことで、資料の良さを改めて認識するとともに、真田宝物館の資料収集活動についてもご理解いただければと考え、はじめて開催する企画展です。そこで、今回は、この新収蔵資料展について概要をご紹介します。

本展の中心になっている資料群は飯沼美術館旧蔵資料です。飯沼美術館は安曇野市にあった私設美術館で、閉館に伴い、所蔵品のうち真田家に関係する資料を真田宝物館が譲り受けました。これらは、時期ははっきりしませんが、飯沼美術館側が真田家から直接譲り受けたといわれるもので、六連銭があしらわれた調度品や武具など40点程で構成されています。

中には、6代藩主・真田幸弘の正室で白河藩松平家から輿入れした美代姫(真松院)の関係品と考えられる、白河藩松平家の家紋・梅鉢紋と六連銭が蒔絵された小物箱や、10代藩主・真田幸民の継室で旧薩摩藩島津家から輿入れした輯子(おさこ)のものとみられる、島津家の家紋・丸に十字がほどこされた筆筒などもあります。また、8代将軍・徳川吉宗のひ孫にあたる8代藩主・真田幸貫のものではないかと思われる、葵紋入りの陣羽織もあります。こうした家紋が入った資料は真田宝物館にも複数あり、真田家伝来資料と一体のものであったことを如実に示しているといえるでしょう。

さらには、少なくとも昭和初期以前に真田家が資料に付したと考えられるラベルが貼られた資料も見受けられます。このラベルは楕円形の飾り枠

飯沼美術館旧蔵の火事羽織



の中に「真田家所蔵」と印刷され、武具や調度といった分類と番号が書かれたもので、このラベルも真田宝物館所蔵資料中に今も数多く貼られているものです。数十年の時を経て真田宝物館の所蔵となったこれらの資料をぜひまとめてご覧いただければと思います。

同時開催として、今年長野市の文化財に指定された、長野市松代町・長國寺所蔵の「堀江物語絵巻」も展示しています。この絵巻は戦国時代末期に生まれ、江戸時代初期まで活躍した絵師・岩佐又兵衛の筆とされているものです。又兵衛の作風は、リアルな細密描写と金銀をふんだんに使った極彩色が特徴で、作品は全国各地に遺されています。「堀江物語」は下野国(現：栃木県)の豪族・堀江太郎による、両親の仇討と家の再興を遂げるという物語を題材としたものです。岩佐又兵衛の作品群の一つとして美術的、歴史的価値が高いことから市の文化財に指定されました。この絵巻は、時期ははっきりしませんが、真田家から菩提寺である長國寺に寄進されたものである可能性が指摘されており、文化財に指定されたことにより、今後の研究が深まり、美術品としてまた真田家との関係も含めて、その価値がさらに注目されていくものと思われます。

普段は長國寺で保管されていますが、今回、文化財指定されたことを記念して、長い絵巻を3期に分けて全巻を展示させていただく予定ですので、ぜひこの機会に新収蔵品とともに御覧いただければと思います。



地域と共に歩む脱炭素への道

(株)守谷商会 長野建築本店
営業部営業課 次長 畑 謙司

私は、長野オリンピックが終わった年に入社し、建築営業部に配属され今年で26年目を迎えました。その間に様々な経済状況を経験し、慌ただしくあっという間に時間が過ぎていったと感じています。

昨今、業務で環境関連事業に携わることが多くなりましたので、ご紹介させていただきます。

弊社は、建設会社として建物の性能向上を通じて脱炭素社会の実現に貢献したいと考えています。特に業務施設が多い長野地域では、建物のエネルギー消費によるCO₂排出が地域環境に大きく影響します。そこで、私たちは地域に根ざした取り組みを進めています。

地中の恵みを活かす ～地中熱事業の展開～

弊社では、自然の力(地下水)を活かした「地中熱」の普及に力を入れています。地中熱とは、一年中温度が安定している地中の熱エネルギー源です。この技術を使えば、夏は涼しく、冬は暖かい環境を、従来の空調システムより約30%も少ないエネルギーで実現できます。

これにより、CO₂排出量を減らしながら、お客様の光熱費も節約できる一石二鳥の効果が期待できます。学校や医療福祉施設、ショッピングモールなど大きな建物に特におすすめしています。

私たちは、お客様のニーズに合わせて、地中熱システムの設計から施工、アフターケアまで一貫してサポート。長野の気候や建物の特徴に合わせた「オーダーメイド」のシステムで、最適な省エネ効果を実現します。



SDGs
REGISTERED PARTNER
NAGANO PREFECTURAL
GOVERNMENT

みんなで創る脱炭素な長野 ～地域連携の取り組み～

弊社は「長野地域脱炭素実現推進協議会」を運営し、地域全体での脱炭素化を目指しています。この協議会では、長野市の特色を活かした脱炭素の取り組みを考え、実行しています。

私たちは協議会の中で、地中熱の技術やノウハウを活かして、県内の学校や市役所、企業の建物に再生可能エネルギーを取り入れるお手伝いをしています。特に、寒い冬が特徴の長野では、地中熱を使った暖房システムが大活躍！エネルギー消費を抑えながら、快適な室内環境を実現しています。

また、地域の皆さんに環境について考えていただくきっかけづくりとして、環境教育イベントや脱炭素セミナーも開催しています。長野の豊かな自然を次の世代にも残していくために、みんなで知恵を出し合い、行動していくことが大切だと考えています。

弊社は、これからも地中熱の活用と地域との連携を大切にしながら、長野の美しい自然環境を守り、持続可能な社会づくりに貢献していきます。未来に向けて、環境にやさしい長野を一緒に創っていきましょう。



◇ 守谷の地中熱 ◇



◇ 長野地域脱炭素
実現推進協議会 ◇

長野県建設業協会長野支部

- 7月 4日 △ 正副支部長会議
- 7月 8日 △ 土木正副委員長会議（長野建設事務所とのミニ意見交換会）
- 7月 9日 △ 県協会事務局長会議
- 7月 23日 △ 長野地区木造家屋等建築工事安全対策委員会総会
- 7月 25日 △ 技術者セミナー
- 8月 6日 △ 長野地区木造家屋等建築工事安全対策委員会安全パトロール
- 8月 20日 △ 監理技術者講習会
- 8月 21日 △ 二団体合同役員会
- 8月 25日 △ 建設技術実践プロジェクト刈払機講習

長野市建設業協会

- 7月 15日 △ 市長要望
- 7月 25日 △ 建築委員会(ササランド活動支援)
△ ながの地域まるとキャンパス「Mウェーブ現場見学」
- 7月 31日 △ 土木委員会(長野市契約課・維持課・検査課との意見交換会)
- 8月 5日 △ 広報委員会
- 8月 21日 △ 二団体合同役員会
- 8月 22日 △ ながの地域まるとキャンパス「千曲川現場見学・ドローン体験」
- 8月 27日 △ 建築委員会（長野市とのワークショップ）
- 8月 29日 △ 千曲川塩崎遊水地起工式(会長出席)

関連団体

- 7月 1日 建災防：△ 安全指導者会
- 7月 2日 建災防：△ フルハーネス型安全帯使用作業特別教育
- 7月 14日 建災防：△ 建設業における熱中症予防指導員・管理者研修
- 7月16～17日 建災防：△ 監督者研修
- 7月 22日 建災防：△ 安全パトロール
△ 安全懇談会
- 8月4～6日 建災防：△ 地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習会
- 8月 7日 技士会：△ 準備講習会講師打合せ会
建災防：△ 建設工事関係者連絡会議
- 8月 28日 犀協会：△ 砂防ボランティア「薬師沢環境整備」

会員動静

●代表者変更

(株)風間産業（支部単独会員）

嗣 木田 毅 嗣 藤沢 一三

編集後記

この時期ネタになるのが猛暑（熱中症等）です。本当は違う内容で執筆しようと思ったのですが、何せ毎日が危険な暑さです。今年の6月1日から労働安全衛生規則が改正され①体制整備②手順作成③報告体制の整備一が義務付けられました。WBGTや気温を把握するために環境省の熱中症対策警戒アラートなるものをLINEに登録をすれば、一日に何度も警戒メールが来ます。スタッフからも「指数計の確認だけでいいと思うのですが…」と意見が出ています。

子供の頃も夏は暑いと記憶していますが、ここまで暑くはなかったです。地球温暖化は当然、理解していますが、ここ数年を振り返ると、冬の季節が終わり、これから春になると思いながら4月下旬には暑い日が続き、そのまま夏本番になり、秋はそれなりに感じる事はできますが、日本の四季、春夏秋冬の春が消えてしまうようで心配になります。まだまだ暑い日が続きますが、熱中症にならないように、しっかりと対策を行いながら暑い季節を乗り越えましょう。

(和田明人)

ご意見・投稿をお待ちしています。

発行所 一般社団法人長野市建設業協会

<https://sikenkyo.sakura.ne.jp/>

長野市岡田町124-1 長水建設会館内

TEL026-224-3660 Fax026-228-6231

長野県建設業協会長野支部

<http://w2.avis.ne.jp/~nkn/>

長野市岡田町124-1 長水建設会館内

TEL026-227-6226 Fax026-228-6231

発行責任者 飯島 泰臣 川浦 俊樹

編集責任者 柳沢 昌宏

編集製作 長野経済新聞社

建設ながのNo.234 令和7年9月発行